

## 【水の里の旅コンテスト2015 応募企画】

阪南大学国際観光学部 小林ゼミ

地域と人をつくる郡上パズル

～250年の知恵が息づく水といきるまち郡上八幡～




観光地域名：岐阜県郡上市 郡上八幡

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	夏（実施時期：7～8月）		
【催行人員】	10名（最少催行人員：1名）	【お勧めする旅行者層】	訪日外国人
【旅行代金】	【内訳】		
	郡上八幡散策：郡上八幡博覧館＋郡上八幡城 共通入場券 650円 郡上八幡まちなみ観光案内人 2700円 郡上八幡観光ヤナ 鮎つかみ体験（昼食込）1400円 渡辺染物店 郡上本染め体験 6000円 泉坂（夕食）1000円 ゲストハウスまちやど 4500円 16250円（大人1名）		
※現地交通費、朝市、散策等での食事代・お土産代などを含まない ※共通入場券の有効期限は購入日を含む1週間			
【企画趣旨】			
<p>郡上八幡はかつて大火に見舞われ、全町が焼き尽くされた経験から、街路沿いに常時流れる水路を張り巡らし、防火用水として水路を設備しました。その防火目的の用水路がその後、細かい水となって人々の生活に溶け込み、活用されていき、郡上独自の水活用システムとなっていきました。水といきるまちの郡上八幡ですが、少し前までは地域住民の人々は昔ながらの水を使う生活に慣れており、その貴重な水資源に気づいていませんでした。しかし、郡上八幡の宗祇水が環境省の名水百選第一号に選ばれたことで、当たり前のもとし自覚されていなかった豊かな水資源を住民たちが再発見し、新しいまちづくりへと変化を遂げていったのです。そこで私たちは、郡上八幡の素晴らしい水環境である地域住民と水との関わり方を継承していくために名水を守る高い意識の持続が今後の課題であると考えました。そこから、パズルの足りないところを補い合ってひとつのものをつくる本質を、<u>郡上八幡に暮らす住民の水の恵みを活かすまちを守る意識の持続と訪日外国人の水に対する意識の変化や新たな発見・気づきを掛け合わせて、訪日外国人観光客と郡上の地域住民が共に豊かさを発見することができる旅にしようと考えました。</u>外国では、水道をひねって安全な水を飲める国は少なく、また、水と共に暮らすまちづくりに親しみがありません。郡上八幡の豊かな水との暮らしを学び体感することで、水に対する意識を変え、新たな発見・気づきにしていってほしいと思います。また、郡上八幡に暮らす住民側としても、水に親しみのない訪日外国人の方々と触れ合い、訪れる人に心地よい水環境を提供し、水の恵みや大切さを教えることで、水の恵みを活かすまちを守る意識の持続へとつながります。こういったことから、水を中心として、地域と人をつなげる郡上パズルというテーマにしました。そして、<u>郡上八幡は、清流と名水の城下町と郡上おどりのふるさとでもあり、長い歴史の中で郡上びとによってはぐまれた清流の文化が多く存在します。</u>郡上八幡に息づく伝統の工芸の数々や、歴史的な美しい城下町の街並み、郡上八幡の豊かな水と自然が育んだ食材、これはすべて名水と清流が育んだ文化です。こうした日本の伝統や文化、歴史が住民たちによって受け継がれ残ってきたものを、実際にみて、学び、感じて、体験することで、より日本のことを深く理解してもらえることが旅行者（訪日外国人）にとって満足していただけるポイントではないかと考えております。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
		・水と共に生きる郡上八幡をまるごと体験することができ、また日本の伝統や文化、歴史をより深く理解することができる。 ・地域住民とより近く接することで、住民の視点から郡上八幡の魅力を知ることができる。	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
①		②	
【特記事項】			
【催行実績】			

【 行 程 表 】

1 日目	<p>10:00 郡上八幡散策 郡上八幡博覧館見学後、地域住民の方々による郡上八幡まちなみ観光案内人と共に城下町である郡上八幡の町並みや史跡などのおすすめスポットを、地域の方々とコミュニケーションを交えながら観光をおこなう。</p> <p>↓</p> <p>12:00 郡上八幡観光ヤナ(鮎つかみ体験)(昼食)</p> <p>↓</p> <p>14:00～ 渡辺染物店(郡上染め体験)</p> <p>↓</p> <p>作品を乾燥させるための間、自由時間 その後、泉坂にて夕食</p> <p>↓</p> <p>18:00～ 郡上踊り(伝統盆踊り体験)</p> <p>↓</p> <p>ゲストハウスまちやどに宿泊</p>
2 日目	<p>8:30 城下町朝市</p> <p>↓</p> <p>10:00 郡上八幡城観光</p> <p>↓</p> <p>11:30～14:00 城下町周辺散策(昼食)</p> <p>↓</p> <p>14:00 解散</p>

【 主な観光ポイント(観光地・観光箇所の歴史、由来など) 】

【 郡上八幡博覧館 】	【 宗祇水 】	【 水舟 】
 <p>(郡上八幡博覧館ホームページより)</p>	 <p>(郡上八幡観光協会ホームページより)</p>	 <p>(郡上八幡観光協会ホームページより)</p>
<p>大正9年に建てられた旧税務署を、当時の外観はそのままに利用した、現代とレトロが融合したミュージアムで、郡上八幡を水・歴史・技・郡上踊りの4つのテーマに分けて、郡上八幡の歴史や文化、産業などを楽しく学ぶことができ、郡上八幡の魅力詳しく知ることができる。博覧館見学を通して水といきるまち郡上八幡に対する理解を深めることができ、旅の始まりとして郡上八幡について予習する。</p>	<p>由緒正しき史跡で、文明3年(1471)連歌の宗匠・飯尾宗祇が郡上の領主である東常縁から古今伝授を受けて京へ戻るとき、当時の2大歌人であるふたりが、この泉のほとりで歌を詠み交わしたといわれている。環境省が選定した「日本名水百選」の第1号に指定されたことで有名になった湧水。</p>	<p>郡上八幡特有の水利用のシステム。湧水や山水を引き込んだ二槽または三槽からなる水槽のうち、最初的水槽が飲用や食べ物を洗うのに使われ、次の水槽は汚れた食器などの洗浄をおこなう。残りの水は、そのまま下の池に流れ、鯉や魚の餌となり水は自然に浄化されて川に流れ込み仕組みとなっている。水と共に暮らす町づくりに関心を持っていただくことで郡上ならではの水の有効な使い方を学ぶことが可能。</p>

【渡辺染物店】



(郡上八幡観光協会ホームページより)

郡上本染を継承する渡辺家は、約430年にわたって野生の草木を使って藍染めをする農家の手甲、脚絆、野良着などを染めてきた歴史がある。郡上八幡の古い家並みに続く立町の紺屋「渡辺染物店」で当主渡辺庄吉氏は全国でも珍しい正藍の伝統と技術を守り続ける職人として有名。郡上本染は、現在建物を含めて工程のすべてが岐阜県重要無形文化財の指定を受けている。水の恵みによって育まれた郡上八幡の伝統工芸技術を学び、体験することで日本の伝統美を感じることができる。

【郡上踊り】



(郡上八幡観光協会ホームページより)

郡上おどりは400年にわたって城下町郡上八幡で歌い踊り続けられてきたもので、江戸時代に城主が土農工商の融和を図るために、藩内の村々で踊られていた盆踊りを城下に集め、盆の4日間は身分の隔てなく無礼講で踊るがよいと奨励したため年ごとに盛んになったものである。地元の人や観光客も、誰もが一緒に輪になって踊れる楽しさが特徴で観る踊りではなくみんなが参加する踊りで、老若男女、地元の人や観光客も一緒になって踊る。地元住民の方々と一緒になって踊ることで郡上八幡の伝統をじかに味わい交流を深めることができる。

【郡上八幡城】



(郡上八幡観光協会ホームページより)

戦国時代末期の永禄2年(1559)、遠藤盛数によって築かれたのが郡上八幡城のはじまりである。城郭一帯の石垣すべてが県の史跡に指定され、昭和8年(1933)に再建された天守閣は市の有形文化財に指定されている。また、昭和8年再建の日本最古の木造天守である。水といきるまち郡上八幡の歴史に触れながら城下町が一望できる山城から、郡上八幡の自然を感じることが可能。